令和４年度　授業改善推進プラン

教科（　英語　）　　学年（　1　学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

・アンケート結果によると、めあての提示、ふり返りの実施、学び合い、発表の機会など、授業形式に対しては、生徒たちはおおむね肯定的に捉えていることがわかる。
・一方、わかりやすさや学ぶ楽しさに関しては、否定的な回答が比較的多い。

授業等の課題分析

・ふり返りの内容が理解できない生徒や、準備ができていないまま発表等の活動に参加し、授業が楽しくないと感じている生徒を見落としたまま、形式的に授業を進めているのかもしれない。

目指す授業

・生徒一人ひとりが「わかる」「楽しい」授業を目指す。

授業改善のための具体的な方策

・ふり返りシートや CAN-DO リストを活用して、理解度や達成度を確認しながら授業を進める。
・生徒が「理解してから書く」という時間を確保する。
・事前に板書計画をし、内容を精選、整理して、わかりやすい板書をする。
・めあての提示やふり返りについては時間を最小限保ちながら継続するが、今後は展開の時間を充実させ、説明や練習の時間を十分に確保する。

令和４年度　授業改善推進プラン

教科（　英語　）　　学年（　２　学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

・アンケート結果では、肯定的な回答であっても「どちらかと言えば当てはまる」が「当てはまる」を上回っている項目が多い。
・特に、授業に積極的に取り組んでいるかというアンケート項目では約８割の生徒が「どちらかと言えば当てはまる」と回答しているが、授業を行っている印象では、実際には「どちらかと言えば当てはまらない」と思われる生徒も多いのではと感じられる。このままでは次回のアンケートでは否定的な回答が８割になるかもしれない。
・わかりやすさと学ぶ楽しさに関する項目では、否定的な回答がある。

授業等の課題分析

・わからないから積極的に参加しない、積極的に参加しないからわからない、という悪循環が起きている。

目指す授業

・生徒が目的をもって参加し、英語を理解し、練習し、めあてとして設定されている項目をできるようになる授業を目指す。

授業改善のための具体的な方策

・形式的にめあてを提示するだけでなく、本時の授業で何をしたら何ができるようになるのか、説明する。
・スモールステップで理解度や達成度を確認しながら活動を進め、めあての達成まで導く。
・学び合いのペアやグループが英語の苦手な生徒同士にならないように指定する。
・思考や表現は苦手でも単純作業は集中してできる生徒が多いため、基本文を書き写したり穴埋めをしたりするような活動も取り入れ、段階的に達成感を得られるようにする。

令和４年度　授業改善推進プラン

教科（　英語　）　　学年（　３　学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

・アンケート結果によると、めあての提示、ふり返りの実施、学び合い、発表の機会など、授業形式に対しては、生徒たちはおおむね肯定的に捉えているが、学び合いに関しては否定的な回答が他学年よりも多い。
・わかりやすさと学ぶ楽しさに関しては、約１／４の生徒が否定的に回答している。

授業等の課題分析

・めあてを提示し、学び合いを行い、発表もさせ、ふり返りもしているのに、わかりにくい、楽しくないという評価になっているということは、生徒の理解度を考慮しないまま授業が形式的に進められている可能性がある。
・昨年度は２クラスに分けて少人数で行っていたのが本年度は１クラスで行っているため、生徒一人ひとりに対する指導や支援等が少なくなっていることも原因の一つと考えられる。

目指す授業

・生徒一人ひとりがわかる授業を目指す。

授業改善のための具体的な方策

・各活動をスモールステップに区切り、特に苦手な生徒の理解度や達成度を確認しながら進める。
・机間指導等で苦手な生徒が教師や特別支援教育担当指導員からの支援を受ける機会を増やせるよう、準備する。
・学び合いのペアやグループが苦手な生徒同士にならないように指定し、生徒数が比較的多いため、学び合いの場面を精選し、効果的に設定する。
・板書やワークシートの内容を精選し、基礎・基本に集中して覚えられるようにする。